

# 小中連携によるエシカル教育の実践

鎌野 育代\*・青木 佳美\*\*・竹吉 昭人\*\*\*・平井 早苗\*・多々納 道子\*\*\*\*

Ikuyo KAMANO・Yoshimi AOKI・Akihito TAKEYOSHI・Sanae HIRAI・Michiko TATANO  
A Practical Study on Ethical Education for Elementary and Junior High School Students Though Cross Age Teachings.

現在の消費者教育に最も期待されていることは、消費者市民社会の形成に向けて消費者市民を育成することである。また、消費者市民社会の形成に必要な消費者市民の行動は、エシカル消費である。そこで、本研究は、児童・生徒にとって身近な弁当の消費を事例として、自らの消費行動が経済、社会、環境に与える影響を理解している消費者、持続可能な消費を実現する消費者、他者と協働して積極的に地域や社会の問題を解決するために行動できる消費者を育成するために、小学校と中学校が連携し、エシカル消費についての共通の教材を用いることで互いに学びあうという形態の授業開発を試みた。

まず、エシカル消費を捉えるための視点として、人や社会への配慮、環境への配慮、地域への配慮といった3つの視点から様々なから揚げ弁当の選択についてエシカルポイント(エシカルな消費をポイント化したもの)を設定し、エシカル消費を可視化した。また、中学生がエシカル消費について学んだことを小学生に伝えるといった連携の授業を行った。

本研究で開発した小・中連携によるエシカル消費について理解を深め、実践力につなぐための授業実践は、児童・生徒にとって互恵性のある学びであったこと、生活現実に沿った主体的な学びであったことが明らかとなった。

【キーワード：探究の過程、消費者教育、エシカル消費、小中連携、家庭科、弁当】

## 1. 本研究の目的と方法

グローバル化、少子高齢化、地球温暖化などが加速する現代において、わが国の消費者教育のめざすところは、自立した消費者を育成するとともに消費者市民社会を実現することにある。この消費者市民社会とは、すべての消費者が、自分だけでなく周りの人々や、将来生まれる人々の状況、内外の社会経済情勢や地球環境まで思いを馳せて生活し、社会の発展と改善に積極的に参加する社会と定義されている。(消費者教育推進法 第2条)つまり、多面的な視点をもって消費生活を行おうとする消費者の育成を目指すということである。また、消費者教育はいま、国連によるSDGs(持続可能な開発目標)という国際的な潮流のなかで、消費者市民社会をキーワードにさまざまな期待を担っている。

そこで、本研究はSDGsの12「つくる責任、つかう責任:持続可能な消費と生産パターンを確保する」に焦点をあて、消費者市民社会の構築に向けた消費者教育の充実をめざした教材開発を行った。具体的には、エシカル消費について理解し、エシカル消費の視点から商品の選択と購入ができるようになることを可視化するため、エシカルポイントを設定した教材を開発した。エシカル消費は、環境や人権等、社会に配慮した消費のスタイルであり、フェアトレード、リサイクル、有機

栽培、動物福祉、その他様々な事柄が含まれる。消費者庁(2017)によると、消費者それぞれが各自にとっての社会的課題の解決を考慮したり、そうした課題に取り組む事業者を応援しながら消費活動を行うことをエシカル消費としている。

これまでにも、エシカル消費に関する研究知見としては、大学生を対象とした研究よりエシカル消費に関連する認知度を上げること、すなわち知識として獲得し内容の理解を深めることがエシカル消費の必要性に対する意識や関心を高める可能性が示唆されること、エシカル消費に関する実践度を上げるには、エシカル消費の必要性を理解し、関心を高めることが不可欠であることが確認されている(鈴木・尾上,2019)。さらに、霞内(2018)はエシカル消費を学んだ後に、他者へ発信することが、生徒が学びを「自分ごと化」し、学びを定着することに効果的であること、異校種連携によるエシカル消費の学びとして、高校生が小学生に児童労働についてのプレゼンテーションを行う中で、小学生の素直な具体的な行動への意欲に触発され、自らも行動したいという意欲が生じたということが報告されている。以上のことから、これからの持続可能な社会を生きる子どもたちにとって、消費者市民教育の一つとしてエシカル消費についての知識を得るとともに自分で判断し、実践する力を育成していく必要があると考える。

\* 高根大学学術研究院教育学系

\*\* 高根大学教育学部附属義務教育学校後期課程

\*\*\* 高根大学教育学部附属義務教育学校前期課程

\*\*\*\* 高根大学名誉教授

本研究では、中学生と小学生との異年齢間の連携授業に取り組んだ。また、エシカル消費への取組を可視化するために、エシカルな消費をポイント化した教材を作成し、授業で使用した。具体的には、子どもの目線からエシカル消費について考え、中学生から小学生に情報を発信することで、子どもたち自身がエシカル消費を「自分ごと化」することで意思決定していく力を身につけていくことをねらっている。

そこで、まず、児童・生徒の消費についての意識を明らかにするために、質問紙調査を実施した。次にその結果を基礎資料として、各学校段階におけるから揚げ弁当の選択とエシカル消費を関係付けて考えるという共通の課題で授業実践を行い、それぞれの授業実践と連携授業による学習効果を明らかにすることを目的とする。

## 2. 消費にかかわる意識調査

### 2-1 調査対象

本調査においては、実際に連携授業を行う鳥根県の国立大学法人の附属学校園の小学校5・6年生と中学校3年生を対象とした。小学生は115名、中学生は136名であった。

### 2-2 調査の実施時期と授業者

調査時期は、2018年10月～11月である。各学校段階とも、家庭科の授業の中で実施した。尺度の作成にあたり、消費者庁「消費者意識基本調査」調査票を参考にした。特にその中の「生活全般や消費生活における意識や行動」を質問項目とした。質問の内容は、あなたは食品を購入するときに、どのようなことを重視していますか。当てはまるもの全てに○をして下さい。として選択肢には値段、安全、産地、環境、賞味・消費期限などとともに、地元の食品、フェアトレード、被災地で作られた食品など16項目から選択させた。次にあなたは次の言葉を聞いたことがありますかとして、聞いたことがある言葉全てを選択させた。選択肢には地産地消や食料自給率、フェアトレードやエコマーク、フードロス、エシカル消費など8項目とした。また同じ選択肢について、説明できる言葉を選択させた。最後に日常生活での経験を問う形で、あなたはお弁当を買ったことがありますか。食品の買い物にいきますか。といった質問を行った。

### 2-3 結果

このような児童・生徒(小学生と中学生)の意識調査の結果からまず、「自分で弁当を買ったことがありますか」という質問に対して、小学生86%、中学生94%が「買ったことがある」と答えていることから、本題材が児童・生徒にとって身近で経験あることといえる。一方、「食品の買い物に行きますか」という質問に対しては、小学生も中学生も「あまりない」という回答が一番多く、食品を購入する経験は日常的ではないといえる。値段、

安全、産地、消費・賞味期限、見た目については、半数以上が食品を購入する際に重視すると回答している。また、マークやフェアトレード、被災地で作られた食品、寄付つき、どんな人が生産にかかわっているかといった項目については、10%以下であり、これらの項目については意識されていないことがわかる。

知識面では、小学生も中学生も地産地消については、認識しているといえる。小学生と中学生に差が見られたことは、フェアトレードや持続可能な社会の項目であった。なお、エシカル消費については小学生も中学生もほとんど知らないという状況であった。

## 3. 指導の工夫

エシカル消費について理解し、エシカル消費の視点から商品の選択と購入ができるように教材を工夫した。

### 3-1 エシカル消費について理解するための8つの視点

児童・生徒にとって身近なから揚げ弁当をエシカル消費の視点から選択する際の考慮点を理解するために調べ学習に取り組みさせた。その視点とは、地産地消、フェアトレード、フードマイレージ、容器包装、フードロス、被災地への支援、障害のある人への支援と寄付つき製品の8つである。これは「倫理的消費」調査委員会『『倫理的消費』調査委員会取りまとめ～あなたの消費が世界の未来を変える～』(2017)で示されたエシカル消費の配慮の対象と具体例として挙げられた10項目から小・中学生が理解できる内容を検討し、決定した8つの視点である。

### 3-2 エシカル消費を実感するための教材

「今度の土曜日に、学級レクレーションがあります。お昼は弁当を買います。予算は700円です。おつりは返金してもらえます。メニューは同じですが、弁当の種類によって値段が異なります。自分だったら、どの弁当にするか決めましょう。」といった設定で、小学生も中学生も同じ教材を用いてから揚げ弁当を選択していく。ここで、児童・生徒は、から揚げ弁当を買う場所、容器、内容の3つの点からそれぞれ選択をしていくことになる。その後、エシカル消費の基本ポイントを配点できる観点として「環境」「人や社会」「地域」の3点を設定し、自分の選択した、から揚げ弁当のエシカルポイントと金額がわかるような教材を準備した(表1)。ここで、設定したエシカルポイントも前述した「倫理的消費」調査委員会(2017)を参考として作成した。

エシカルポイントの計算の仕方としては、表1を参考に選択したから揚げ弁当のエシカルポイントを計算する。さらに、選択の理由の記述内容に表2に記載してあることが入っていれば加点ポイントとした。最終的には表3からから揚げ弁当のエシカルポイントと金額記入表を用いることでエシカルポイントとから揚げ弁当の金額が計算できるようになっている。グループの合計点と合計金額を算出し、クラス全体でのポイントと金額を計算することで、1人の取組みでも、多くの者がエシカル消費を意識することで大きな力を生み出すということが見える教材となっている。

## 3-3 小・中連携の授業

授業実践者として小学校は、竹吉昭人教諭、中学校は青木佳美教諭である。中学生はから揚げ弁当選びを2回行い、1回目から2回目にかけてエシカルポイントの増加を認識することで、一人ひとりがエシカル消費を意識することの大切さを知る。さらに、エシカル消費のよさを広めるために前述した8つの視点について調べ学習を行う。その調べ学習の結果を紙パワポ\*にまとめたものを用いて中学生は小学生に向けて発表を行う。小学生は中学生からの説明を聞いた後、2回目

のから揚げ弁当選びを行い、1回目に選んだエシカルポイントと金額を比較・検討することでエシカル消費を理解し、商品の選択は世界を変えることにつながることを実感することができる。さらに、中学生は小学生に理解したことを伝えることで、小学生の意識が変わることを実感できることが、自分への自信や満足感につながっていることがわかった。\*紙パワポ:小学生にわかりやすく説明したA4サイズの資料

表1 エシカル消費基本ポイント計算表

	種類・金額		エシカルポイント			
			環境	人や社会	地域	
場所	ア 140円	電話で注文しておき、配達してもらう (フードロスの削減)	1点			
	イ 100円	お店(スーパーマーケット)へ行き、買う				
容器	A 10円	回収する容器	1点			
	B 20円	使い捨ての容器				
	C 30円	地域の作業所で作った紙製容器	1点	1点	1点	
内容	① 500円	高級弁当	米は仁多米 肉は益田産 野菜は全て松江市産 バナナは有機農法のフェアトレード商品 寄付つき	1点	2点	3点
	② 500円	味わい弁当	米は仁多米 肉は益田産 野菜は水害からの復興中の岡山県産 有機農法のバナナ使用	1点		3点
	③ 400円	こだわり弁当	米は昨年の災害から復興中の広島県産 野菜は島根県産 肉は益田産 バナナは有機農法のフェアトレード商品寄付つき	1点	2点	2点
	④ 400円	健康弁当	米は生産量2位の北海道産 鶏肉は生産量1位の宮崎県産 にんじんは生産量2位の千葉県産 さといもは生産量1位の千葉県産			
	⑤ 300円	野菜たっぷり弁当	米は北の大地から北海道産 肉は南の国から宮崎県産 野菜は世界の美味を冷凍輸入			
	⑥ 300円	手づくり弁当	米は千葉県産の古米 肉はブラジル産 野菜は国産 有機農法のバナナ使用	2点		
	⑦ 300円	特盛弁当	世界から集めた材料でつくりました。 米は国産(古米・千葉県産) 肉はブラジル産 野菜はタイ、エクアドル、中国より冷凍輸入 バナナはフィリピン産	1点		

表2 エシカル消費 加点ポイント分類表

エシカルポイント（理由に次の内容が入っていれば、一つにつき1点加点）		
環境	人や社会	地域
○有機農産物 ○ごみの削減 ○二酸化炭素の削減 ○自然エネルギーの利用 ○FSC（森林認証制度）の認証 ○MSC（漁業認証基準）の認証	○障害者作業所製造品の購入 ○生産流通段階で児童労働・紛争・鉱物等の社会問題や環境問題を引き起こしていない製品（エシカルファッション） ○フェアトレード品の購入 ○寄付つき製品の購入	○地産地消 ○地元資本商店での買い物 ○応援消費 ○被災地参品購入 ○伝統工芸

表3 から揚げ弁当のエシカルポイントと金額記入表

項目	選択の種類・金額	自分で選んだ弁当について記入		エシカルポイントを記入		
		種類	金額	環境	人や社会	地域
場所 どこで買うか	ア 140円 電話で注文しておき配達					
	イ 100円 お店へ行き買う		円	点	点	点
容器 入れ物はどれにするか	A 10円 回収する容器					
	B 20円 使い捨ての容器					
	C 30円 地域の作業所で作った紙製容器		円	点	点	点
内容 内容はどれにするか	① 500円 高級弁当					
	② 500円 味わい弁当					
	③ 400円 こだわり弁当					
	④ 400円 健康弁当					
	⑤ 300円 野菜たっぷり弁当					
	⑥ 300円 手づくり弁当					
	⑦ 300円 特盛弁当		円	点	点	点
加点ポイント				点	点	点
合計			円	点	点	点

#### 4 中学校での授業の実際

##### 4-1 授業計画

授業実践の時期は、2019年1月～2019年2月である。なお、本研究は実践研究であり、授業実践者の感じた児童生徒の様子や振り返りは授業効果を確認する一端となる。そこで、授業者のこの2つの点についての記述を記載した。

1時間目 学級レクレーションのため、自分の食べたいと思うから揚げ弁当を自由に選択する。  
 弁当を選択した理由を考え、どんな理由が多いのか、班のメンバーと話し合う。  
 エシカルポイントと金額を計算する。  
 弁当の選択を通して、これまでの消費生活を振り返るとともに、購入には環境等への配慮が必要なことを理解する。

2時間目 エシカル消費について学習する。

エシカル消費の視点からから揚げ弁当を選び、1時間目に選んだ弁当のエシカルポイントと比較・検討することから、環境、人や社会、地域への影響を顧みる。

3時間目 エシカル消費について小学生にプレゼンができるように、調べ学習によって考えを深める。エシカル消費に関するプレゼンのイメージを掴むため、SDGsに関する教員のミニプレゼンを聞き、SDGsの考えを理解する。小学生にエシカル消費のよさを伝えるため、エシカル消費の項目を班内で分担して調べ学習を行う。

4時間目 小学生が1時間目に選んだから揚げ弁当のエシカルポイントを計算する。選んだ理由にコ

メントを記入する。

小学生にエシカル消費について広めるため、小学生の実態をふまえて、引き続き調べ学習を行い、結果をプレゼンするために紙パワポを作成する。

5時間目 エシカル消費についてプレゼンし、小学生に伝える。

小学生が再び、から揚げ弁当を選ぶ。

小学生のから揚げ弁当のエシカルポイントと金額を計算する。

小学生が1回目を選んだから揚げ弁当のエシカルポイントや金額を比較し、検討する。

振り返りを行う。

#### 4-2 生徒の取組

「中学生は全5時間の授業であった。1時間目はから揚げ弁当を選ぶ中で普段の自分の消費行動を見つめた。感想には『コストとエシカル消費のどちらを選ぶべきか難しいなと思いました。』というようなものが見られ、自分たちの消費活動が社会全体とつながっている感覚は、まだ薄いようであった。2～4時間目のSDGsの考え方に触れる学習やその後の調べ学習を通して、エシカル消費を今の社会の中で取り組んでいきたいという考えに変化し始めた。

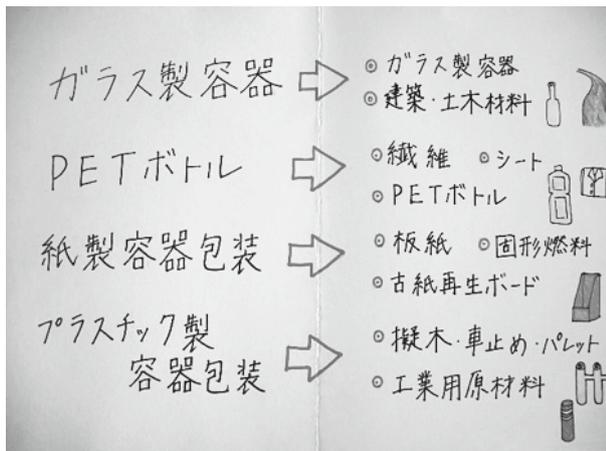


図1 紙パワポの例

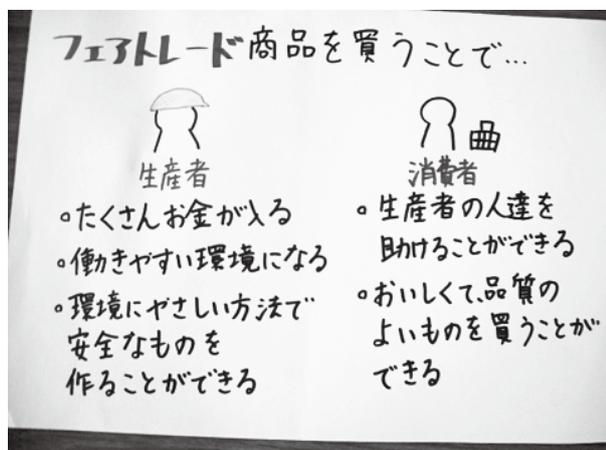


図2 紙パワポの例



写真1 小学生へのプレゼンテーション

そして、周りの人にも伝えてみようということで、まずは小学生に実践しようと、2分間のプレゼンとしてまとめた。人へ伝える時にどうすれば自分の思いをうまく表現し、相手に納得してもらえるか工夫することで、より内容に深みが出ていた。

5時間目は実際に小学生にプレゼンを行った。小学生からの質問を受け一緒に考えたり、小学生の意識の変容を感じたりして、エシカル消費を社会全体で取り組んでいく必要性も感じていた。」

#### 4-3 授業実践を行った教師の振り返り

「私は家庭科の授業を行う時、その学びが家庭の中で実践されるようにという願いを持って行ってきた。しかし、今回の授業を通し、社会の中で生きている私たちは家庭生活が社会とつながっていることにも目を向けることの大切さを感じた。

今の生徒たちは、家庭生活さえまだ主体的に実践できているわけではない。エシカル消費やSDGsの考え方が理想論に終わってしまわないかという思いも持ちながら授業を展開していた。ところが、生徒の感想の中で、『自分も最初は小学生と同じような考えだったけど、いろいろ知った後だから小学生に教えてあげることが出来るので、知ることは大切だと思った。』というものがあつた。この感想を見て、知ること、心が動くこと、なぜその行動が必要なのかという問いを持ち続けることの大切さを改めて感じた。生活を通して実践できる大人になっていくような授業を今後も展開していきたい。」

### 5 小学校での授業の実際

#### 5-1 授業計画

授業実践の時期は、2019年1月～2019年3月である。

1時間目 自分の食べたいから揚げ弁当を自由に選ぶ  
なぜそれを選んだのか、理由も記入  
から揚げ弁当選びを通して、これまでの消費生活を振り返り、物を選択したり、買ったりするためのポイントをまとめる。

2時間目 中学校との連携授業(中学校5時間目と同様)

3時間目 自分たちが弁当を企画する立場であればどん

なから揚げ弁当にするか考える。

この題材全体の振り返りを行う

### 5-2 児童の取組

「小学生に対しては、全3時間の展開計画で授業を実施した。まず、これまでの消費生活を振り返り、物を選択したり、買ったりするポイントをまとめた。計画して購入する大切さや、量や質、値段を確認しながら購入するという基本的な視点はこれまでの学習や生活経験からしっかり意識付けできているように感じた。エシカル消費の視点から見ると、小学生からは、地産地消について、商品選択の際に意識するという意見が聞かれた。子どもたちにとって、家庭科のみならず、社会等他教科の学習を通して、また、日常生活の中でも浸透している言葉であると感じた。

最初のから揚げ弁当の選択の際にも、これら既習事項を活かしながら選択する姿が見られた。国産や地産地消のものは良いというイメージのもと、多い量や安い値段に設定したから揚げ弁当を選択する児童は少なかった。

エシカル消費について、中学生からプレゼンを聞き、エシカル消費の視点を獲得する学習の際には、詳しく、分かりやすくまとめてくれた中学生の発表を熱心に聞く姿が見られた。地産地消はもちろん、なんとなく見聞きしたことのある言葉についても、どのような意味なのか、なぜこれらのような商品選択の視点が良いのか、必要なのかといったことを知ることができ、意欲的にエシカル消費の視点を獲得することができた。

まとめ兼ねた弁当計画の際には、児童にとって条件設定のイメージが難しく、学習の内容について課題が残ったが、中学生から教えてもらったエシカル消費の視点をどうにか入れようと試行錯誤する子どもたちの姿が見られた。」

### 5-3 授業実践を行った教師の振り返り

「小学生の消費行動の実態としては、全体的に日常的な商品選択や購入の経験は少なく、地産地消に関する商品も子どもたち自身が選択・購入しているとは言いがたい。地産地消、国産の商品=おいしい・安全・安心といった漠然としたイメージが中心の中で、今回のような学習展開を仕組、身近な中学生からのプレゼンを聞いたことは、小学生にとってエシカル消費の視点を獲得するには非常に効果的であった。また、エシカルポイントの設定は、エシカル消費への意識を数値化し、実感を伴った学習につながる効果的な手立てとなった。

家庭科で学習する他の内容に比べ、学習したことを即実践、習慣化することが難しい内容のように思う。しかしながら、持続可能な社会の構築に向けて、生活の自立、自立した消費者の育成を目指してこのような学習を積み重ねていくことが重要であり、小学校段階から消費者としての視点を広げていきたい。」

## 6 実践の効果

### 6-1 学習前後のから揚げ弁当選択によるエシカルポイントの変化

表4は中学生によるエシカル消費についてのプレゼンの前後において、個々の小学生が選択したから揚げ弁当のエシカルポイントの合計を表したものである。4クラス全てにおいて、環境、人や社会、地域についてのエシカルポイントが上がっていることがわかる。また、から揚げ弁当の金額についても全て上がっている。これは、学習前は値段や量といった選択の条件であった小学生が、中学生によるエシカル消費のプレゼンを聞いたことで、エシカル消費を求めるようになった結果であると考

表4 小学生の弁当選択によるエシカルポイントの変化

			環境	人や社会	地域	金額
5年1組	学級合計	1回目	45	37	56	14,950円
		2回目	97	111	116	16,180円
5年2組	学級合計	1回目	51	48	72	14,550円
		2回目	98	98	113	15,670円
6年1組	学級合計	1回目	58	44	69	14,870円
		2回目	102	93	120	17,370円
6年2組	学級合計	1回目	74	35	48	14,980円
		2回目	100	102	105	16,690円
		1回目平均	57	41	61.3	14,838円
		2回目平均	99.3	101	114	16,478円

表5 中学生のから揚げ弁当選択によるエシカルポイントの変化

			環境	人や社会	地域	金額
3年1組	学級合計	1回目	90	79	89	18,940円
		2回目	173	152	193	22,500円
3年2組	学級合計	1回目	77	78	99	19,610円
		2回目	147	140	173	21,930円
3年3組	学級合計	1回目	62	66	67	17,910円
		2回目	163	156	177	21,780円
3年4組	学級合計	1回目	80	59	72	17,230円
		2回目	163	138	175	20,310円
		1回目平均	77.3	70.5	81.8	18,423円
		2回目平均	161.5	146.5	179.5	21,630円

えられる。また、表5は中学生がエシカル消費についての学習の前後にから揚げ弁当のエシカルポイントを集計したものである。中学生も小学生同様に、2回目のから揚げ弁当の選択では、エシカルポイントが全ての項目において高くなっている。また、小学生と中学生を比較すると、エシカルポイントは全ての項目において中学校の方が高いという結果になっており、中学生のほうがよりエシカルな消費を意識したから揚げ弁当の選択ができたと考えられる。

#### 6-2 小・中学生の学習後の自由記述内容の分析

小学校も中学校も授業を終えた段階において、「この消費生活の学習を通じて感じたことを今後の生活でどのように生かしていきたいか述べてください」という項目に

表6 小学生の自由記述の内容の分析

記述内容	同様の感想の生徒数 (%)
○今までは、周りのことを考えずに買ったりしていたけど、これからは地域のものや健康を考えるなど、いろいろなことを考えて買い物をしていきたいです。○エシカル消費について勉強して、今後買い物をするときエシカルなものができるだけ買いたいなと思いました。	39名 (41.4%)
○今までエシカル消費について学んでみて、最初はエシカル消費という言葉の意味がよくわからなかったけれど、しっかり知ることができました。○今回消費生活のことをしている知らない言葉も意味もわかったと思うので、良い勉強になってよかったです。	15名 (15.9%)
○今回学んだことを生かして少しでも人のためになるようにしていきたいです。○ものを買うときは、自分だけの都合で買わず、社会に貢献できたらいいなと思いました。	9名 (9.6%)
○これまで地産地消などのことを「そうなんだ〜」で終わっていたけれど、中学生の話の聞いたり、勉強したりして大事さがわかりました。なので、何か買うとき地産地消を意識して買いたいと思いました。	6名 (6.3%)
○私は中学生さんの話を聞いて普段の生活で生かしたいことが一つあります。それは、好き嫌いをせずに食べてごはんを全て食べることです。そうしたら少しでもフードロスを減らせると思うからです。	5名 (5.3%)

○学習して単に好きな食品をとる前に、少し考えて選んだほうが良いということがわかりました。材料を選ぶときには説明を良く見て選びたいです。	4名 (4.2%)
○中学生から教えてもらったことを今後の生活に生かして少しでも世界を変えていきたいです。	3名 (3.1%)
○これから弁当を買うときには、中学生に教えてもらったことを頭に入れて買うことにしようと思いました。みんなにもエシカル消費のことを教えてあげたいと思いました。	2名 (2.1%)
○今回、この勉強をしてみて、私は少し理解が難しかったです。でも少し「エシカル」について考えてスーパーに行くことができました。	1名 (1%)

表7 中学生の自由記述の内容の分析

記述内容	同様の感想の生徒数 (%)
○高校に行ったり、大人になると自分で弁当を買ったり、選んだりするので、そのときにただ、値段だけを見たりするだけでなく、エシカル消費のことを頭において商品を購入したいです。	49名 (41.8%)
○自分が少し多く払ったとしても、そのお金がそのお金が社会に貢献されると思うと、自分も身近なところで貢献していくことができるので、今後の生活でもエシカル消費の視点をもって生活したいと思いました。	21名 (17.9%)
○消費生活の学習を通して値段、賞味・消費期限など日々の生活で大切にしているもの以外にも地元の商品や被災地の商品など誰かを助けられる商品を買いたいと思いました。	20名 (17.1%)
○自分で調べることで自分の考えで選挙以外の方法で社会が変わることがわかりました。自分の考えを伝えることのできる消費をしたいです。	20名 (17.1%)
○消費生活について改めて考えて見ました。普段あまり目に付かないものなどにいろんな意味がありました。買い物などに行くときはしっかり見て考えながら買いたいです。	17名 (14.5%)

○僕はこの消費生活の学習で初めて「エシカル消費」という言葉を耳にしました。僕のようにこのような視点を知らない人がまだ多くいると思うので、家族などの身近なところから環境に配慮した視点を伝えていきたいと思いました。	11名 (9.4%)
○今回エシカル消費について学習し、エシカル消費の視点を広げることができました。僕は「フードマイレージ」について小学生に発表しました。発表するために詳しく調べたことでより深く理解することができました。	9名 (7.6%)
○今まではいかにお金を減らして貯金をするのかということが正しいと思っていました。でも世の中のために、自費で貢献することのほうが正しいと思いました。	4名 (3.4%)
○この前、お菓子を作るときにフェアトレードのチョコレートを買ってみたのですが、それによって私も小さな社会貢献ができたと思うとなんだかうれしくなりました。	2名 (1.7%)

記述された内容を分析した。分析対象は、記述のあった小学生94名分、中学校117名分である。表6、7より、小学生も中学生も全体として約4割の児童・生徒がエシカル消費を意識した買い物をしたい、意識したい、心がけたいといった内容のことが述べられていた。また、小学生に比べて中学生はよりエシカルな消費による社会への影響や個人で社会貢献ができる可能性への気づきが述べられており、より社会的な視点からの記述が多く見られた。

## 7 考察

実践の成果としては、児童・生徒にとって身近な弁当の選択・企画を通してエシカル消費について実感を伴って理解させるためにエシカルポイントを計算し、得点化によって可視化できるように工夫した教材の開発にある。消費者教育は、実践的・体験的に学ぶことが難しい分野である。それは、消費といった実生活の中で行われていることを、具体的に学ぶことが難しいからだを考える。今回、エシカル消費を学ぶために開発したから揚げ弁当の選択によるエシカルポイントの変化が示される教材は、ポイント数の変化という目に見える形でエシカル消費への貢献が実感できる教材である。実際の授業においても、全ての授業実践において、エシカルポイントが高まり、ちょっとした心がけ次第で、エシカル消費は実践できること、また実践しようとする意欲につながることができたと考える。また、中学生は、学習後の記述内容からもエシカル消費を意識することで、環境や社会を変える大きな力につながることをエシカルポイントの変化から実感でき

たことを成果としてあげることができる。

二つ目の成果としては、小学生・中学生が学び合うといった連携の学習方法をとったことの効果である。小学生にとって中学生は教師ではない少し上の年齢層から教えてもらうことで、数年後の自分の姿を想定しながら、より現実に沿った学びの場が展開できたとと言える。また、中学生は小学生に伝える学習を通して、より深い理解につながったと考えられる。

そして、最後は家庭科という教科において展開する「消費者教育」の意義である。東(2018)も消費者教育には、持続可能な未来に向けた主体の形成と価値の醸成に貢献することが求められ、このような期待はまた、未来に対し、家政学が負うべきものとも共通すると述べているが、消費者市民の立場から、モノとヒトとのかかわりを多角的に思考し、判断する力を育成することが家庭科にとって非常に重要である。本研究における授業実践を通して、家庭科における消費者教育の意義について再認識することができたと考える。

## 参考文献

- 東珠美.(2018). 持続可能な未来に向けて消費者教育に期待されること.日本家政学会誌. Vol.69. No.1、71-77
- 鈴木真由子・尾上有香.(2019). 大学生のエシカル消費に対する実態.生活文化研究. Vol.56、35-42
- 消費者庁.(2017).「倫理的消費」調査研究会「倫理的消費」調査研究会取りまとめ～あなたの消費が世界の未来を変える～.  
[https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_education/consumer\\_education/ethical\\_study\\_group/pdf/region\\_index13\\_170419\\_0003.pdf](https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_education/consumer_education/ethical_study_group/pdf/region_index13_170419_0003.pdf)
- 消費者庁.(2014).「消費者意識基本調査」調査票  
[https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_research/research\\_report/survey\\_002/pdf/140718\\_cyousahyo.pdf](https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_research/research_report/survey_002/pdf/140718_cyousahyo.pdf)
- 蔑内ありさ.(2018).異校種連携によるエシカル消費の学び-高校生による小学生への学びの伝達とその効果-.人間文化創生科学論叢. 第21巻、203-211